

課題番号	応募者名	事業名	評価者の主なコメント	評価者のコメントに対する回答
J1809	石川島播磨重工業株式会社	アスベストの無害化処理技術の開発	目的とした成果は十分に上がっていると思われる。	既存の施設の主要な設備で大きな改造をすることなくアスベストを処理することができるを実証できたことで、新規開発よりも短期間で処理量を増加できる道筋を提供できたと考えております。
			既存の溶融炉を用いて検討しているが、今回の結果から得られた新たな設計に資する情報が十分把握できない。提示の情報からは経済性が評価できない。	<p>①新たな設計に資する情報について 従来のアスベスト溶融処理で必要だった1500℃以上という条件より低温の1350～1400℃程度で安定的無害化溶融実証が達成できたことで耐火材等の仕様に関する設計指針が得られました。また、前処理供給の工夫で飛散防止対策効果が確認できたことで新規プラント設計の際の前処理供給設備に関する設計指針が得られたと考えています。</p> <p>②経済性評価について 溶融温度の低温化を除き、従来と同様の運転条件で処理できたことは、灰溶融処理とほぼ同等のコストで処理できるものと考えております。事業化においては既設の前処理や炉内までの自動供給、飛散防止対策に要する改造費用等新たな投資分がコストの増加分になるものと考えております。</p>
			既存施設での混合処理が可能であることを示せた意義は大である。	既存の施設の主要な設備で大きな改造をすることなくアスベストを処理することができるを実証できたことで、新規開発よりも短期間で処理量を増加できる道筋を提供できたと考えております。
			特に新規な技術開発は認められないが、既存の施設システムを整備してアスベストが処理できていることは評価できる。	既存の施設の主要な設備で大きな改造をすることなくアスベストを処理することができるを実証できたことで、新規開発よりも短期間で処理量を増加できる道筋を提供できたと考えております。